

新生・UTIインドファンド インドの銀行セクターについて

インドの経済成長の恩恵を享受すると期待される銀行セクターについて、当ファンドが投資する外国投資信託「Shinsei UTI India Fund (Mauritius) Limited」Class A 投資証券(以下、「投資先ファンド」といいます。)の運用会社であるUTIアセット・マネジメント(以下、「UTI」といいます。)のコメントをもとに、レポートを作成いたしましたのでご覧ください。

<運用会社からのコメント(2016年8月2日現在)>

回復が期待される銀行の貸し出し

銀行の貸出残高は、過去20年間において、平均で約18-19%増加しており、名目国内総生産(以下、「名目GDP」といいます。)の伸び率(13-14%)を上回っていますが、直近2年間では、貸し出しの増勢が鈍化しています。これは、経済成長のペースが鈍化したことで企業の財務健全性に悪影響を与えたためです。しかし、足元で約11-12%の水準にある名目GDP成長率が今後更に回復し、貸出残高の伸びも長期の平均値に向かうと考えています。

企業向け融資が伸び悩んでいるセクターとしては、財務健全性が低下している商品や公益事業、製造業などがあげられます。しかし、政府による公共事業や国際商品価格の安定などが、企業の資金需要を徐々に好転させると見込んでいます。加えて、モンスーン期(6-9月)の降雨量が平年を上回ると予測されていることや公務員給与の引き上げが個人消費や約18-20%の水準で堅調に増加している個人向け融資の追い風になると考えています。

民間銀行の良好な財務健全性

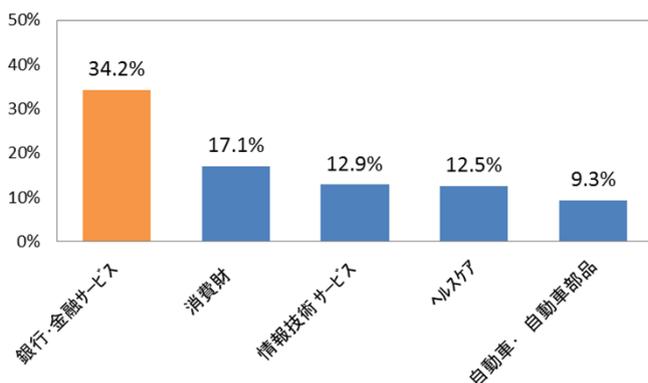
銀行セクターの財務健全性は、ここ数四半期で著しく低下していますが、国営銀行と民間銀行では明確に異なります。ほとんどの国営銀行が抱える不良債権が高水準にあるのに対して、民間銀行の不良債権は低水準にあります。インド準備銀行(RBI)が、国内の全ての銀行に対して、将来の潜在的リスクを調査することを目的に資産査定を要請したため、銀行には引当金を計上する必要が生じていますが、ほとんどの国営銀行にとって利益に著しく影響を与える大規模な債権放棄に繋がります。しかし、繰り返しになりますが、民間銀行の不良債権は低水準にあり、不良債権処理に伴う影響は限定的であると考えています。

ポートフォリオ戦略

当ポートフォリオでは、これまで民間銀行が良好な財務体質とともに、優れた成長や高い総資産利益率(ROA)*を実現してきたと考えていることから、銀行セクターについては民間銀行のみ保有しております。ここ数四半期において、民間銀行は成長の勢いを維持しているだけでなく、国営銀行のように財務健全性の低下に直面していないことは明らかです。このように現状のポートフォリオは、不良債権問題を抱える国営銀行を組入れていない一方、資本を有効活用して景気回復の恩恵を享受すると考えられる民間銀行のみを組入れており、国内経済の回復や銀行貸し出しの増加に向けたポジションを構築しています。今後も、国営銀行を保有しないポートフォリオを維持していく方針です。

※総資産利益率(ROA)とは、企業に投下された総資産(総資本)が、利益獲得のためにどれほど効率的に利用されているかを示す指標です。

【投資先ファンドの組入上位5業種】



*【投資先ファンドの組入上位5業種】の比率は、外国投資法人であるShinsei UTI India Fund (Mauritius) Limited Class A 投資証券の純資産総額をもとに算出した比率であり、2016年6月末時点です。

*業種は、UTIアセット・マネジメントの業種区分に基づいており、小数点以下第2位を四捨五入しています。

<ご参考>

S&P BSE100種指数(ムンバイ100種指数)の推移
 (期間：2015年7月31日～2016年8月2日、日次)



インド・ルピー(対円)の推移
 (期間：2015年7月31日～2016年8月2日、日次)

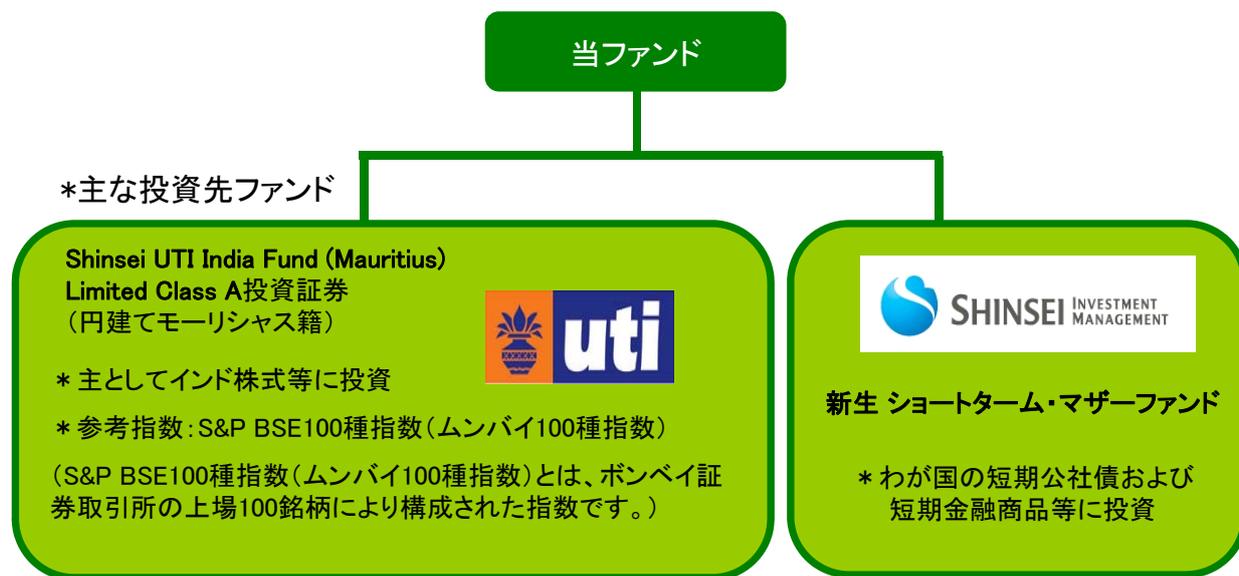


※S&P BSE100種指数(ムンバイ100種指数)とは、ボンベイ証券取引所の上場100銘柄により構成された指数です。

出所：ブルームバーグのデータをもとに新生インベストメント・マネジメントにて作成

<当ファンドの特色>

- 主にインド株式へ投資を行う「Shinsei UTI India Fund (Mauritius) Limited」Class A投資証券への投資割合を高位に保つことをめざします。また、投資先ファンドの外貨建て資産については、原則として為替ヘッジは行いません。
- 当ファンドの主要投資対象である投資先ファンドは、インド国内の大手投信会社であるUTIグループが運用します。投資先ファンドにおいては、マクロ分析やセクター分析を行うトップダウン・アプローチと個別銘柄の定量分析や定性分析を行うボトムアップ・アプローチを併用して運用を行います。



【お申込みメモ】投資信託説明書(交付目論見書)でご確認ください。

| | |
|--------------------|--|
| ファンド名 | 新生・UTIインドファンド |
| 商品分類 | 追加型投信/海外/株式 |
| 当初設定日 | 2006年12月27日(水) |
| 信託期間 | 無期限とします。 |
| 購入・換金単位 | 販売会社が定める単位とします。 |
| 購入価額 | 購入申込受付日の翌営業日の基準価額とします。 |
| 購入代金 | 販売会社が定める期日までにお支払いください。 |
| 換金価額 | 換金申込受付日の翌営業日の基準価額から信託財産留保額(当該基準価額に、0.3%の率を乗じて得た額)を控除した価額とします。 |
| 換金代金 | 原則として換金申込受付日から起算して、7営業日からお申込の販売会社でお支払いします。 |
| 申込締切時間 | 午後3時までに、販売会社が受付けた分を当日のお申込み分とします。 |
| 換金制限 | 大口の換金には制限を行う場合があります。 |
| 購入・換金申込受付の中止及び取り消し | 金融商品取引所等の取引停止、外国為替取引の停止その他やむを得ない事情がある場合等は、購入・換金のお申込みの受付を中止すること、および既に受付けた購入・換金のお申込を取消す場合があります。 |
| 繰上償還 | 次のいずれかの場合には、委託会社は、事前に受益者の意向を確認し、受託会社と合意のうえ信託契約を解約し、信託を終了させること(繰上償還)ができます。 ・受益権の口数が10億口を下回ることとなった場合 ・信託契約を解除することが受益者のために有利であると認めるとき ・やむを得ない事情が発生したとき |
| 決算日 | 原則として、毎年12月10日(休業日の場合は翌営業日)とします。 |
| 収益分配金 | 年1回の決算時に、原則として収益の分配を行います。 ※分配金を受け取る「一般コース」と、自動的に再投資される「自動けいぞく投資コース」があります。なお、どちらか一方のコースのみのお取扱いとなる場合があります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。 |
| 信託金の限度額 | 1兆円を上限とします。 |
| 購入・換金申込不可日 | 販売会社の営業日であっても、下記のいずれかに該当する場合は、購入換金のお申込はできません。 ・モーリシャスの銀行休業日 ・ボンベイ証券取引所の休業日 ・ナショナル証券取引所の休業日 |
| 課税関係 | 課税上は株式投資信託として取扱われます。 公募株式投資信託は税制上、少額投資非課税制度の適用対象です。 益金不算入制度、配当控除の適用はありません。 |

お客さまには以下の費用をご負担いただきます。

●お客さまが直接的にご負担いただく費用(消費税率が8%の場合)

| | | |
|---------|---|---|
| 購入時手数料 | 購入価額に 3.78%(税抜 3.5%) を上限として、販売会社が独自に定める率を乗じて得た額とします。※詳しくは、販売会社にお問い合わせください。 | 当ファンドおよび投資環境の説明・情報提供、購入に関する事務手続き等の対価です。 |
| 信託財産留保額 | 換金申込受付日の翌営業日の基準価額に 0.3% の率を乗じて得た額を、ご換金時にご負担いただきます。 | |

●お客さまが信託財産で間接的にご負担いただく費用(消費税率が8%の場合)

| | | | |
|--------------------------------|-------------------------------|-----------------------|--|
| 運用管理費用 (信託報酬) (括弧内数字は税抜) | 当ファンドの 運用管理費用・年率 (信託報酬) | 1.2312%(1.14%) | 信託報酬＝運用期間中の基準価額×信託報酬率 日々のファンドの純資産総額に対し、左記の率を乗じて得た額とし、 計算期間の最初の6ヵ月終了日(当該終了日が休業日の場合はその 翌営業日とします。)および毎計算期末または信託終了のときにファンド から支払われます。 |
| | (委託会社) | 0.4212%(0.39%) | 委託した資金の運用の対価です。 |
| | (販売会社) | 0.7560%(0.70%) | 購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内での ファンドの管理等の対価です。 |
| | (受託会社) | 0.0540%(0.05%) | 運用財産の管理、委託会社からの指図の実行の対価です。 |
| | 投資対象とする 投資信託証券・年率 | 0.70% | 管理・投資運用等の対価です。 |
| 実質的な負担・年率 | 1.9312%程度(税込) | | |

| | | | |
|------------|---------|------------------------|--|
| その他の費用・手数料 | 当ファンド | 財務諸表監査に関する費用 | 監査に係る手数料等(年額105万円および消費税)です。当該費用が日々計上され毎計算期間の最初の6ヵ月終了日および毎計算期末または信託終了の時にファンドから監査法人に支払われます。 |
| | | 信託事務の処理に要する諸費用等 | 法廷書類等の作成費用、法律・税務顧問への報酬等です。当該費用が日々計上され毎計算期間の最初の6ヵ月終了日および毎計算期末または信託終了の時にファンドから支払われます。ただし、ファンドの純資産総額に対して年率0.10%(税込)を上限とします。 |
| | 投資先ファンド | 組入価値証券等の売買の際に発生する取引手数料 | 組入価値証券等の売買の際、発注先証券会社等に支払う手数料等です。 |
| | | 監査報酬 | 投資先ファンドの監査に関して監査法人に支払う手数料です。 |

※「その他の費用・手数料」につきましては、運用状況等により変動するものであり事前に料率、上限額等を表示することができません。

※手数料および費用等の合計額についてはファンドの保有期間等に応じて異なりますので表示することができません。

※詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)の「手続き・手数料等」をご覧ください。

【委託会社、その他関係法人】

| | |
|------|--------------------------------------|
| 委託会社 | 新生インベストメント・マネジメント株式会社(設定・運用等) |
| | 登録番号 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第340号 |
| | 加入協会 一般社団法人投資信託協会 一般社団法人日本投資顧問業協会 |
| 受託会社 | 三井住友信託銀行株式会社(信託財産の管理等) |
| 販売会社 | 下記参照(募集・換金の取扱い・目論見書の交付等) |

(2016年8月5日現在)

| 金融商品取引業者名(五十音順) | | 登録番号 | 日本証券業協会 | 一般社団法人日本投資顧問業協会 | 一般社団法人金融先物取引業協会 | 一般社団法人第二種金融商品取引業協会 |
|-----------------|----------|------------------|---------|-----------------|-----------------|--------------------|
| 岩井コスモ証券株式会社 | 金融商品取引業者 | 近畿財務局長(金商)第15号 | ○ | | ○ | |
| 白木証券株式会社 | 金融商品取引業者 | 関東財務局長(金商)第31号 | ○ | | | |
| エイチ・エス証券株式会社 | 金融商品取引業者 | 関東財務局長(金商)第35号 | ○ | | | |
| エース証券株式会社 | 金融商品取引業者 | 近畿財務局長(金商)第6号 | ○ | | | |
| SMBC日興証券株式会社 | 金融商品取引業者 | 関東財務局長(金商)第2251号 | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 株式会社SBI証券 | 金融商品取引業者 | 関東財務局長(金商)第44号 | ○ | | ○ | ○ |
| 岡三証券株式会社 | 金融商品取引業者 | 関東財務局長(金商)第53号 | ○ | ○ | | ○ |
| 島大証券株式会社 | 金融商品取引業者 | 北陸財務局長(金商)第6号 | ○ | | | |
| 株式会社新生銀行 | 登録金融機関 | 関東財務局長(登金)第10号 | ○ | | ○ | |
| セントレード証券株式会社 | 金融商品取引業者 | 関東財務局長(金商)第74号 | ○ | | ○ | |
| 高木証券株式会社 | 金融商品取引業者 | 近畿財務局長(金商)第20号 | ○ | | | |
| 株式会社東和銀行 | 登録金融機関 | 関東財務局長(登金)第60号 | ○ | | | |
| 内藤証券株式会社 | 金融商品取引業者 | 近畿財務局長(金商)第24号 | ○ | | | |
| 日産証券株式会社 | 金融商品取引業者 | 関東財務局長(金商)第131号 | ○ | | ○ | |
| フィデリティ証券株式会社 | 金融商品取引業者 | 関東財務局長(金商)第152号 | ○ | | | |
| マネックス証券株式会社 | 金融商品取引業者 | 関東財務局長(金商)第165号 | ○ | ○ | ○ | |
| 丸近証券株式会社 | 金融商品取引業者 | 近畿財務局長(金商)第35号 | ○ | | | |
| 三田証券株式会社 | 金融商品取引業者 | 関東財務局長(金商)第175号 | ○ | | | |
| 三井住友信託銀行株式会社 | 登録金融機関 | 関東財務局長(登金)第649号 | ○ | ○ | ○ | |
| 楽天証券株式会社 | 金融商品取引業者 | 関東財務局長(金商)第195号 | ○ | ○ | ○ | ○ |

【投資リスク】投資信託説明書(交付目論見書)でご確認ください。

当ファンドは、組入れた有価証券等の値動きにより、基準価額が大きく変動することがありますが、これらの運用による損益はすべて投資者の皆様へ帰属します。また、外貨建て資産に投資した場合、為替変動リスクも加わります。したがって、ファンドにおける投資者の皆様の投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割込むことがあります。また、投資信託は預貯金とは異なります。

当ファンドの主なリスクは以下のとおりです。ファンドのリスクは下記に限定されるものではありません。

《主な基準価額の変動要因》

1. 価格変動リスク(株価変動リスク)

当ファンドは、主として投資信託証券を通じて株式に投資します。一般的に株式の価格は、発行企業の業績や国内外の政治・経済情勢、金融商品市場の需給等により変動します。また発行企業が経営不安となった場合などは大きく下落したり、倒産等に陥った場合などは無価値となる場合もあります。実質的に組入れた株式の価格の下落は基準価額が下がる要因となり、その結果投資元本を割込むことがあります。また当ファンドは、先進国の金融商品市場に比べ、市場規模や取引量が比較的小さい国・地域の株式を実質的な投資対象としますが、そうした株式の価格は大きく変動することがあります。さらに、流動性が低いため、想定する株価と乖離した価格で取引を行わなければならない場合などがあり、それらのことが基準価額の下落要因となり、その結果投資元本を割込むことがあります。

2. 為替変動リスク

当ファンドは、実質的に外貨建て資産に投資しますので、投資した資産自体の価格変動のほか、当該資産の通貨の円に対する為替レートの変動の影響を受け、基準価額が大きく変動し、投資元本を割込むことがあります。為替レートは、各国の経済・金利動向、金融・資本政策、為替市場の動向など様々な要因で変動します。また当ファンドは、先進国の金融商品市場に比べ、市場規模や取引量が比較的小さい国・地域を実質的な投資対象としますが、そうした国・地域の為替相場は大きく変動することがあります。さらに、流動性が低いため、想定する為替レートと乖離したレートで取引を行わなければならない場合などがあり、それらのことが基準価額の下落要因となり、その結果投資元本を割込むことがあります。

3. カントリーリスク

当ファンドは、実質的に海外の資産に投資します。このため、投資対象国・地域の政治・経済、投資規制・通貨規制等の変化により、基準価額が大きく変動することがあり、投資元本を割込むことがあります。特に新興国は、先進国と比較して、一般的には経済基盤が脆弱であるため、経済状況等の悪化の影響が大きくなり、そのため金融商品市場や外国為替市場に大きな変動をもたらすことがあります。また政治不安などが金融商品市場や外国為替市場に大きな変動をもたらすことがあります。先進国と比較し、経済状況が大きく変動する可能性が高く、外部評価の悪化や経済危機等が起こりやすいリスクもあります。さらに大きな政策転換、規制の強化、政治体制の大きな変化、テロ事件などの非常事態により、金融商品市場や外国為替市場が著しい悪影響を被る可能性があります。自然災害の影響も大きく、より大きなカントリー・リスクを伴います。

4. 信用リスク

当ファンドは、実質的に組入れた有価証券等の発行者の経営・財務状況の変化およびそれらに対する外部評価の変化等により基準価額に影響を受け、投資元本を割込むことがあります。

特に新興国は先進国に比べ、発行者の経営・財務状況の急激な悪化や経営不安・破綻が起こりやすいリスクがあります。

5. その他の留意点

- ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリング・オフ)の適用はありません。
- 金融商品取引所等の取引停止、外国為替取引の停止その他やむを得ない事情がある場合等は、受付を中止することやあるいは既に受付けた注文を取消すことがありますのでご注意ください。
- 投資信託に関する法令、税制、会計制度などの変更によって、投資信託の受益者が不利益を被るリスクがあります。

ご留意いただきたい事項

- 当資料は、新生インベストメント・マネジメント株式会社が作成した販売用資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。
- 当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料中の記載内容、数値、図表等については、当資料作成時のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。なお、当資料のいかなる内容も将来の投資収益を示唆・保障するものではありません。
- ファンドは、実質的に株式など値動きのある資産(また外貨建て資産の場合、この他に為替変動リスクもあります)に投資しますので、市場環境等により基準価額は変動します。したがって元金保証および利回り保証のいずれもなく、運用実績によっては投資元本を割込むおそれがあります。
- ファンド運用による損益は、すべて投資信託をご購入される受益者のみなさまに帰属します。
- お申込の際には、あらかじめまたは同時に投資信託説明書(交付目論見書)をお受取りいただき、必ず内容をご理解のうえ、お客様ご自身でご判断ください。
- 投資信託は預金や保険とは異なり、預金保険機構または保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、元本や利回りの保証はありません。
- 販売会社が銀行等の登録金融機関の場合、投資者保護基金の補償の対象ではありません。
- 投資信託のお申込に時には購入手数料、ならびに運用期間中は運用管理費用(信託報酬)等がかかります。